



不登校になる大半の責任は親にある

文部科学省がフリースクールを認めたことにごく然としている

大半の善良な市民は、嫌がる子どもを無理にでも学校に通わせて義務教育を受けさせている

という某市長の発言が物議を醸していましたが……

??

COCOLOプラン

を知っていますか？ (令和5年3月;文部科学省)

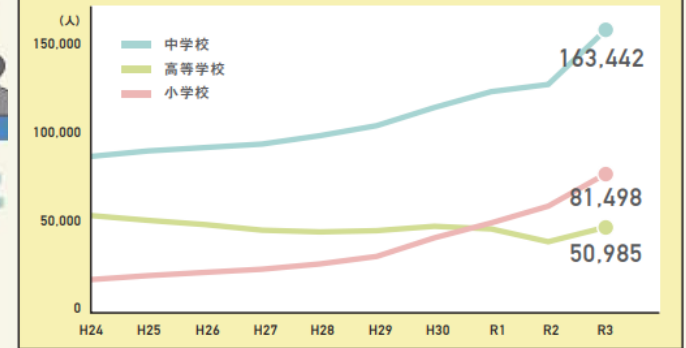
- 1 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える
- 2 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する
- 3 学校の風土の「見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にする

以上により、**誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策**です。

不登校児童生徒数の推移

不登校の児童生徒の約半数が、長期(年間90日以上)欠席。
中学校では不登校傾向の生徒が不登校の生徒の3倍との調査も。*

*日本財団「不登校傾向にある子どもの実態調査」(H30)



つながりのイメージ



文部科学大臣によると、「プランを実現するためには、行政だけでなく、学校、地域社会、各ご家庭、NPO、フリースクール関係者等が、相互に理解や連携をしながら、子供たちのためにそれぞれの持ち場で取組を進める必要があります」とのこと。

学校だけで抱え込むのではなく、保護者や民間の団体との連携が大切

文部科学省では、不登校の要因を

- 学校に係る状況
- 家庭に係る状況
- 本人に係る状況
- 該当なし(その他)

4つに分類していますが、「●●の責任」とかではなく、不登校となっても学びを継続し、社会で活躍できるような支援を大切にしたいですね。

